

2019年度 日本気象学会東北支部第2回理事会 議案

書面開催

日時：2019年3月10日（火）～同月19日（木）

議 題

1. 2019年度事業報告	2 ページ
2. 2019年度会計報告	6 ページ
3. 2019年度会計監査報告	7 ページ
4. 2020年度事業計画案	
(1) 支部理事会	8 ページ
(2) 支部だより	8 ページ
(3) 支部気象講演会	8 ページ
(4) 支部気象研究会	9 ページ
(5) 日本気象予報士会東北支部と連携した活動	9 ページ
(6) 日本気象学会小倉奨励賞などへの応募	9 ページ
(7) 第32期役員選挙	9 ページ
5. 2020年度予算案	10 ページ
6. 検討事項	
(1) 支部長会議の報告	12 ページ
(2) 2023年度気象学会秋季大会の日程について	13 ページ
(3) 今後の支部強化基金による活動について	13 ページ
7. その他 事務局から	13 ページ

資 料

役員名簿（第31期2019年度）	15 ページ
東北支部規則	16 ページ
東北支部細則	17 ページ

議題 1. 2019年度事業報告

1 2019年度支部活動報告

1) 東北支部だより発行

■第89号 (2019年10月発行)

- ・ 支部長就任あいさつ
- ・ TOPIC「北極域における温室効果気体の観測」：森本 真司氏（東北大学理学研究科附属大気海洋変動観測研究センター）
- ・ 2018年度日本気象学会東北支部第2回理事会 議事抄録
- ・ 2019年度日本気象学会東北支部第1回理事会 議事抄録
- ・ 日本気象学会東北支部気象講演会のご案内
- ・ 第10回気象サイエンスカフェ東北の開催について
- ・ 東北支部「気象研究会」の開催案内と講演募集
- ・ 事務局からのお知らせ

■第90号 (2020年3月発行予定)

- ・ TOPIC「数値予報で利用する観測データに関する世界情勢」
：佐藤 芳昭氏（仙台管区気象台気象防災部長）
- ・ 報告1「2019年度 日本気象学会東北支部気象研究会」：日本気象学会東北支部事務局
- ・ 報告2「第10回気象サイエンスカフェ東北報告」：杉山 公利氏（日本気象予報士会東北支部長）
- ・ 報告3「2019年度 日本気象学会東北支部気象講演会開催」：青森地方気象台
- ・ 2019年度日本気象学会東北支部臨時理事会 議事抄録
- ・ 2019年度日本気象学会東北支部第2回臨時理事会 議事抄録
- ・ 事務局からのお知らせ

2) 東北支部気象講演会

日 時：2019年12月7日（土）13時30分～16時00分

会 場：弘前大学創立50周年記念会館「みちのくホール」

テーマ：「気象と漁業 Chain of changes」

～気候変動がもたらす 極端な気象現象と水産資源の変化の連鎖～

講演者：加藤 輝之氏（気象庁 気象大学校教頭）

木所 英昭氏

（国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北区水産研究所沿岸資源グループ長）

参 加：131名

主 催：日本気象学会東北支部

共 催：弘前大学大学院理工学研究科、青森地方気象台

後 援：青森県、弘前市、青森河川国道事務所、日本赤十字社青森県支部、

日本気象予報士会東北支部、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、
FMアップルウェーブ、地球ウォッチャーズ-気象友の会-

3) 東北支部気象研究会

仙台管区気象台東北地方調査研究会との共催

日時：2019年12月2日（月）10時00分～16時15分

場所：仙台第3合同庁舎 2階大会議室

発表：19題（発表応募10題（前回比-7題）、
仙台管区気象台東北地方調査研究会9題）

参加人数：約60名

気象研究会の発表演題、著者（敬称略、発表者に○）

なお紙面の都合上、仙台管区気象台東北地方調査研究会の題目は省略

- ・ 全球赤道域における Dry Intrusion の自動検出 および大気循環場との関係
○柳澤 彩紀、谷田貝 亜紀代（弘前大学大学院理工学研究科）
- ・ 東シベリアの河氷融解に伴う急激な流量増加へ影響を及ぼすオホーツク海高気圧
○大島 和裕（環境科学技術研究所）、朴 昊澤（海洋研究開発機構）、堀 正岳（国立極地研究所）、吉川 泰弘（北見工業大学）
- ・ 地球および日本列島の温暖化の要因
○今清水 雄二（無所属）
- ・ 従来型観測のみを同化した日本域高解像度領域再解析の夏季における降水の再現性
○曾我 大輝、福井 真、岩崎 俊樹、山崎 剛（東北大学大学院理学研究科）
- ・ 夏季黒潮域における降水システムの日周期
○山下 堯也、岩渕 弘信、岩崎 俊樹（東北大学大学院理学研究科）
- ・ 関東平野に発生する沿岸前線の MSM 予報バイアスに関する解析
○鈴木 健斗、岩崎 俊樹、山崎 剛（東北大学大学院理学研究科）
- ・ 科学教育用数値実験ソフトの開発 -中学校理科 Web-CReSS SE の活用に向けて-
○佐々木 恒、名越 利幸（岩手大学教育学部）
- ・ 盆地霧の数値シミュレーション -岩手雫石の事例-
○菱 満貴、名越 利幸（岩手大学教育学部）
- ・ レーザー分光法による大気中 N₂O および CO 濃度連続観測システムの開発と南極・昭和基

地における大気観測への応用

○赤井 章吾、森本 真司、李 偉（東北大学大学院理学研究科）、後藤 大輔（国立極地研究所）、青木 周司（東北大学大学院理学研究科）

・海大陸周辺で発生する対流雲に対するエアロゾルの影響の定量的解析

○大芦宏彰、岩渕弘信、Pradeep Khatri（東北大学大学院理学研究科）

また、今年度より日本気象学会東北支部支部発表賞を設け、学会員のうち、予めエントリーした人を対象に、優れた研究発表を行った発表者を表彰することとした。

今年度の受賞者は以下のとおり。

○鈴木健斗（東北大学大学院理学研究科）

「関東平野に発生する沿岸前線のMSM予報バイアスに関する解析」

○酒井貴紘（福島地方気象台）

「X-MPレーダで捉えられた雷雲内の微細構造について（福島県北部2019年6月5日の事例）」

4) 支部理事会

- ・第1回（2019年6月11日、仙台管区気象台第1会議室）
- ・臨時理事会（書面開催 2019年7月2日～同月12日）
- ・第2回臨時理事会（書面開催 2019年12月16日～同月23日）
- ・第2回（書面開催 2020年3月9日～同月19日）

5) 支部強化基金による活動（気象サイエンスカフェ東北）

第10回気象サイエンスカフェ東北

【概要】

日 時：2019年11月16日（土）14～16時

会 場：せんだい環境学習館 たまきさんサロン

（東北大学青葉山新キャンパス内東北大学大学院環境科学研究科本館（J22）1階）

テーマ：「わが町の気候変動どうやって予測する？」

話題提供者：山崎 剛（東北大学大学院理学研究科 教授）

主催：日本気象学会東北支部、日本気象予報士会東北支部、

せんだい環境学習館 たまきさんサロン

共催：日本気象協会東北支社、仙台管区気象台

後援：宮城県教育委員会、気象友の会

来場者数：19名（一般来場者のみ）

6) 日本気象学会小倉奨励賞の推薦

- ・推薦はなし

議題2. 2019年度会計報告 (2020年3月2日時点)

〔支部一般会計〕 (2019年4月1日～2020年3月2日)

	予算額	決算額	差異 [予算-決算]
I 収入の部			
事業活動収入			
本部交付金	*1 545,600 円	545,600 円	0 円
前期繰越金	185,482 円	185,482 円	0 円
事業収入 (広告料等)	0 円	0 円	0 円
雑収入			
預金利息	5 円	4 円	1 円
事業活動収入計(1)	731,087 円	731,086 円	1 円
II 支出の部			
事業活動支出			
事業費支出			
支部気象講演会	250,000 円	220,806 円	29,194 円
支部気象研究会	100,000 円	49,600 円	50,400 円
支部だより	200,000 円	97,627 円	102,373 円
ホームページ運営費	15,000 円	15,000 円	0 円
管理費支出			
支部理事会	85,000 円	47,900 円	37,100 円
事務費	50,000 円	14,040 円	35,960 円
事業活動支出計(2)	700,000 円	444,973 円	255,027 円
III 予備費支出			
予備費支出 (*2 旅費不足分支払い)	31,087 円	10,752 円	20,335 円
予備費支出計(3)	31,086 円	10,752 円	20,335 円
当期収支(A)=(1)-(2)-(3)	0 円	275,361 円	
次期繰越額(A)-(残りの支出予定額)	0 円	275,361 円	

※マイナスの金額には、△印を付した。

*1：本部交付金は、支部会員 163 名 (2019 年 4 月 1 日現在) ×1,200 円+35 万円。

*2：過去の支部活動旅費の不足分について返金を実施した。2018 年度東北支部第 2 回理事会議事録 議案 7②参照。

黄色塗りつぶしは、今年度まだ事業 (支出予定) が残っているもの

〔支部強化基金による活動会計〕（気象サイエンスカフェ東北）

	予算額	決算額	差異 [予算-決算]
I 収入の部			
事業活動収入			
本部交付金	95,000 円	95,000 円	0 円
気象予報士会東北支部分担金	20,000 円	*1 20,000 円	0 円
事業収入（広告料等）	0 円	0 円	0 円
雑収入	0 円	0 円	0 円
事業活動収入計(1)	115,000 円	115,000 円	0 円
II 支出の部			
事業活動支出			
事業費支出			
資料印刷費	45,000 円	43,254 円	1,746 円
会場費 開催費	25,000 円	6,811 円	18,189 円
講師謝金	15,000 円	0 円	15,000 円
事務費	5,000 円	5,390 円	△390 円
役務費・交通費	25,000 円	0 円	25,000 円
事業活動支出計(2)	115,000 円	55,455 円	59,545 円
当期収支差額=(1)-(2)	0 円	59,545 円	

※マイナスの金額には、△印を付した。

*1：2020年3月7日に20,000円を受領。

黄色塗りつぶしは、今年度まだ事業（支出予定）が残っているもの

議題3. 2019年度会計監査報告（2020年3月4日時点）

預金通帳、領収書を照合の結果、誤りが無いことを認めます。

2020年3月4日
日本気象学会東北支部会計監査

岩井弘樹 

議題4. 2020年度事業計画案

2 2020年度支部活動計画

1) 東北支部理事会の開催

- ・例年は年2回（5～6月、3月頃予定）開催している。
- ・議論が必要な場合は、適宜臨時理事会を開催する。

2) 東北支部だより発行

- ・年2回発行(第91号、92号)の予定。
- ・作業簡略のため、発行作業は原稿のとりまとめまでとし、編集、印刷及び会員への発送は2019年度と同様に業者発注とする。

3) 東北支部気象講演会

【概要】

日 時：未定

会 場：未定

テーマ：未定

- ・2020年度は宮城県で開催予定※、テーマ等は未定。今後準備を進めていく。

2013年度以降の開催状況

年度	開催地	講演者		
2013年度	弘前市	楠 研一	児玉 安正	
2014年度	福島市	渡邊 明	小畑 英樹	
2015年度	仙台市	岩崎 俊樹	小森 大輔	廣川 康隆
2016年度	盛岡市	山本 浩之	名越 利幸	
2017年度	秋田市	和田 幸一郎	本谷 研	
2018年度	山形市	小杉 健二	川瀬 宏明	
2019年度	弘前市	加藤 輝之	木所 英昭	

方針：気象講演会は原則として「持ちまわり」で開催する。ただし、他のイベント等との同年開催については配慮を行うとともに、会員等からの開催・運営の意向があった場合、宮城県等他県での開催も可能とし、担当理事がこれを調整する。なお開催地を変更する場合は、準備の都合上、開催前年度の第2回理事会前（例年2月～3月）に東北支部事務局へ通知することとする。

※2020年度は福島地方気象台において別途「気候講演会」の開催が予定されているため、宮城県での開催とする。

4) 東北支部気象研究会

2020年度の開催については、仙台管区気象台 防災調査課と検討し、気象台の東北地方調査研究会と東北支部気象研究会の合同発表会の形式で行うことを計画する。

5) 日本気象予報士会東北支部と連携した活動（気象サイエンスカフェ東北）※

- ・第11回気象サイエンスカフェ東北を、仙台市で開催する。テーマや講師等は、日本気象予報士会東北支部と連携して検討を行う。

【概要】

日 時：未定

会 場：未定

テーマ：未定

※これまで本部から交付されていた支部活動強化基金（95,000円）は、見直しにより廃止され、代わりに来年度から普及啓発活動への助成金（40,000円）が交付される予定である。これに伴い、項目名をこれまでの「支部強化基金による活動」から変更した。

6) 日本気象学会小倉奨励賞などへの推薦

7) 第32期役員選挙

2020年3月31日を以って、第31期役員の任期は満了する。それに伴い、2020年春に第32期役員選挙を執り行う。なお選挙管理人は、岩渕幹事にご担当いただく予定である。

（日程概要）

- ・3月下旬：選挙告示を会員宛に発送（郵便またはメール）
- ・4月中旬：立候補者受付締切（予定：4月17日（金））
- ・4月下旬：投票用紙を会員宛に発送（郵便）
- ・5月中旬：投票締切（予定：5月18日（月））
- ・5月下旬：開票・当選者確定
- ・6月頃：2020年度第1回理事会にて報告・当選者公示（支部だより第91号にて掲示）

議題5. 2020年度予算案

〔支部一般会計〕（※マイナスの金額には、△印を付した。）

	2020年度 予算額	2019年度 予算額	予算増減額 [2020年—2019年]	2019年度 決算額
I 収入の部				
事業活動収入				
本部交付金				
* ¹ 一般交付金(仮名)	* ² 556,400円	545,600円	10,800円	545,600円
普及啓発活動への助成	40,000円	0円	40,000円	0円
気象予報士会東北支部分担金	* ³ 20,000円	0円	20,000円	0円
前期繰越金	* ⁴ 180,000円	185,482円	△5,482円	185,482円
事業収入(広告料等)	0円	0円	0円	0円
雑収入				
預金利息	5円	5円	0円	4円
事業活動収入計(1)	796,405円	731,087円	65,318円	731,086円
II 支出の部				
事業活動支出				
事業費支出				
支部気象講演会	250,000円	250,000円	0円	220,806円
支部気象研究会	100,000円	100,000円	0円	49,600円
支部だより	200,000円	200,000円	0円	97,627円
気象サイエンスカフェ東北	60,000円	0円	60,000円	0円
ホームページ運営費	15,000円	15,000円	0円	15,000円
管理費支出				
支部理事会	85,000円	85,000円	0円	47,900円
支部役員選挙	30,000円	0円	30,000円	0円
事務費	50,000円	50,000円	0円	14,040円
事業活動支出計(2)	790,000円	700,000円	105,000円	444,973円
III 予備費支出				
予備費支出	6405円	31,087円	△9,682円	* ⁴ 275,361円
予備費支出計(3)	6405円	31,087円	△9,682円	275,361円
当期収支差額 (A)=(1)-(2)-(3)	0円	0円	0円	0円

*¹これまでの本部交付金と同義。

*²一般交付金は、会員172名×1,200円+35万円を見込む。

*³2020年度気象予報士会東北支部分担金は予定。

*⁴想定される繰越額は暫定。12月中旬時点での収支差額を予備費の支出項に暫定的に入れていく。

黄色塗りつぶしは、2019年度にまだ事業(支出予定)が残っているもの

緑色塗りつぶしは、2020年度からの新規項目(支部会計基金の廃止に伴い移動してきた項目を含む)

議題6. 検討事項

(1) 支部長会議の報告

冒頭の理事長挨拶においては、厳しい財政問題、顕著現象が増大する情勢下での基礎研究とともに普及啓発の重要性が触れられた。

○支部報告

支部長全員出席で、各支部からの報告があった。

それぞれ支部の置かれている状況（社会的、支部を担当する気象官署の事情など）が異なり、課題は様々。活動の詳細は資料を参照。

活動内容は大枠は同じだが、少しずつ違っており、東北支部は、他支部と比較すると活動は標準かやや上という印象であった。

○秋季大会

九州支部からの2019年福岡大会の報告に関連して、懇親会については、大会会計と明確に分離する方が望ましいと瀬上理事から発言があった。また、最近内閣府の監査でこの種の指摘があったとのこと。

2020年は京都テルサで開催予定、3日間5会場を想定。

2021年は三重大学で開催予定。国際会議との名目があれば県から助成が得られる可能性あり。

○支部交付金問題

東北支部からは、昨今の災害多発を鑑み、普及啓発を中心とする支部活動の重要性を訴えた。各支部の事情は様々だが、同様に交付金が減る九州支部は、一部事業や助成の縮小などで対処することのこと。東北支部は流動的ながら次年度も同様の活動規模を模索したいとした。

なお、本部事務局からは、特段の事情があれば財政的配慮はやぶさかではないとの発言もいただいている。

○学会運営

財政問題に対する対処を中心に議論した。

一部の支部長からは機関紙「天気」の見直しが提案された。支部長は管区台長が多いので、他の学会に加入している方も多く、他の学会ではニューズレター的な機関誌はオンラインとしているところが多いとの意見もあった。

それに関連して、「天気」を面白くするために、地方支部の活動紹介などを投稿してほしいという話もあった。

前回も出たが気象庁職員の学会参画についてのお願いもあった。

(2) 2023年度日本気象学会秋季大会の日程について

2023年度の秋季大会開催候補日は2019年度第2回臨時理事会（書面開催）により、2023年10月23日（月）～同月27日（金）とした。このうち連続する4日間を開催予定日としたい。

事務局案は、次のとおり。

2023年10月23日（月）～同月26日（木）

※会場準備のため同月22日（日）も会場予約済

(3) 今後の支部強化基金による活動について

東北支部では、これまで支部強化基金による活動として、毎年「気象サイエンスカフェ東北」を日本気象予報士会東北支部と連携して開催してきた。

来年度に支部協会基金が廃止され、本部からの交付金が実質大幅な減額となるものの（議題4（5）参照）、日本気象予報士会東北支部からの分担金などにより、当面は引き続き同様の活動を実施可能の見込みである。

来年度以降も引き続き、日本気象予報士会東北支部と連携して「気象サイエンスカフェ東北」開催を継続することとし、今後さらに状況等に変化があれば、改めて支部活動の見直しも含めて方針を検討する。

議題7. その他（事務局から）

① 東北支部会員数（個人会員）

2020年2月21日現在

県名	会員数	2019. 04
青森県	24名	26名
岩手県	14名	11名
秋田県	11名	14名
山形県	15名	15名
宮城県	72名	77名
福島県	20名	20名
合計	156名	163名

7名減

支部メーリングリスト登録者数
2020年2月21日現在

県名	登録者数	2019.04
青森県	21名	23名
岩手県	7名	7名
秋田県	13名	13名
山形県	10名	10名
宮城県	67名	70名
福島県	16名	15名
合計	134名	138名

4名減

②旅費等について

交通費については

青森は 22,900円 [11,420円×2]

弘前は 23,300円 [11,640円×2]

秋田は 21,100円 [10,560円×2]

盛岡は 13,600円 [6,790円×2]

山形は 2,400円 [1,170円×2]

福島は 2,700円 [1,340円×2]

仙台、岩沼は片道500円をお願いします。

※100円未満の端数は切り上げています。

なお、支部活動における旅費の支給は、上記に準ずるものとします。

消費税率引き上げ（2019年10月1日）による運賃・料金の改正を適用。

日本気象学会東北支部第31期2019年度役員名簿

2020年3月9日現在

支部長	山里 平	仙台管区气象台長
常任理事	青木 周司	東北大学大学院教授（理学研究科）
	山崎 剛	東北大学大学院教授（理学研究科）
	菅原 敏	宮城教育大学教授（理科教育講座）
	杉山 公利	日本気象予報士会東北支部長
	奈良 慶	日本気象協会東北支社総務課長
	佐藤 芳昭	仙台管区气象台気象防災部長
	加藤 廣	仙台管区气象台気象防災部予報課長
地方理事	谷田貝 亜紀代	弘前大学大学院教授（理工学研究科）
	福田 正人	青森地方气象台長
会計監査	岩井 弘樹	仙台管区气象台気象防災部気象防災情報調整官
幹事	岩淵 弘信	東北大学大学院准教授（理学研究科）
	淵上 隆雄	仙台管区气象台気象防災部防災調査課 調査官
	中川 憲一	仙台管区气象台気象防災部地球環境・海洋課 技術専門官

日本気象学会東北支部規則

昭和 32. 5. 26	成立
昭和 32. 7. 5	第 8. 11 条を改正、 第 15～19 条を追加
昭和 40. 11. 18	第 8 条を改正
昭和 56. 10. 12	第 2 条を改正
昭和 60. 3. 19	第 9 条を改正
平成 2. 6. 21	第 8 条を改正
平成 6. 2. 28	第 8. 9. 12. 14. 18 条を改正
平成 9. 6. 3	第 2 条を改正
平成 22. 6. 11	第 8 条を改正
平成 25. 6. 20	第 1. 2. 18 条を改正
平成 27. 3. 12	第 18 条を改正
平成 28. 2. 29	第 13 条を改正

- 第 1 条 本支部は公益社団法人日本気象学会東北支部という。
- 第 2 条 本支部は事務所を仙台市宮城野区五輪一丁目 3 番 15 号第 3 合同庁舎、仙台管区気象台内に置く。
- 第 3 条 本支部は東北 6 県に在住する全ての日本気象学会員で構成される。
- 第 4 条 本支部は日本気象学会の定款の範囲内で事業を行うが、特に支部会員の研究の奨励、推進ならびに相互の連絡につとめることを目的とする。
- 第 5 条 本支部は前条の目的を達成するために、講演会ならびに学術的会合の開催、その他この支部の目的にかなう事業を行う。
- 第 6 条 本支部の事業年度は毎年 4 月 1 日にはじまり、翌年 3 月 31 日に終わる。
- 第 7 条 本規則の実行に必要な細則は、支部理事会の決議によって別に定める。
- 第 8 条 本支部に次の役員を置く。
理事 8～11 名（常任理事 2～8 名内支部長 1 名）、会計監査 1 名。
- 第 9 条 理事および会計監査は支部会員の選挙によって定める。
ただし、任期中に欠員が生じた場合は細則の定めるところによって補充する。
- 第 10 条 支部長および常任理事は理事の互選によって理事の中から定める。
- 第 11 条 支部長はこの支部を代表して会務を総理する。支部長に事故があるとき、または欠けたときは、支部長があらかじめ指名した常任理事がその職務を代行する。
- 第 12 条 理事はこの支部の会務を行う。会計監査は支部の会計を監査する。
- 第 13 条 支部長は必要に応じ、会務の一部を処理するため幹事（3～4 名）を置くことができる。
- 第 14 条 理事および会計監査の任期は 2 年とする。ただし、重任は妨げない。
理事および会計監査は任期満了後も後任者の就任するまでその職務を行う。
- 第 15 条 支部長は毎年 1 回および必要に応じて理事会を招集する。
- 第 16 条 理事会は過半数の理事の出席がなければ成立しない。
- 第 17 条 支部長は次の事項を理事会の承認を得て会員に報告しなければならない。
（1）事業計画および収支決算
（2）その他理事会において必要と認めた事項
- 第 18 条 本支部の経費は本部交付金（支部強化基金を含む）と寄付金とする。
- 第 19 条 この規約は理事の 3 分の 2 以上の賛成を得なければ変更することができない。
- 付則
- 第 20 条 この支部の設立当初の役員は設立準備会でこれを選任する。

以上

日本気象学会東北支部細則

昭和 33. 7. 5	成立
昭和 40. 11. 18	1 項を改正
昭和 41. 3. 15	7 項を改正
昭和 60. 3. 19	12、13、14 の各項を改正
平成 6. 2. 28	1、8、9、12、13 の各項を改正
平成 22. 6. 11	1 項を改正
平成 27. 3. 12	1 項を改正
令和 1. 7. 10	日本気象学会東北支部発表賞の条項を追加

1. 理事選挙

- 1 理事は東北地区在住の会員より 8～11 名選出する。このうち在仙理事 5～8 名、地方理事若干名とする。
会計監査は東北地区在住の会員より 1 名を選出する。
- 2 次期理事の定数および在仙・地方別理事数は理事会で決定する。
- 3 候補者は理事会の推薦者および立候補者とし、投票締切日の 20 日前までに決定のうえ、会員に周知させるものとする。
- 4 立候補者は投票締切日の 30 日前まで支部長宛に届け出るものとする。
- 5 投票は無記名連記とする。ただし、連記数は第 2 項の決定による在仙・地方別理事数とする。
- 6 投票は文書投票とする。
- 7 有効投票により、各地区別に投票の多い順に次期理事を決定する。同数の場合は年少者を上位とする。ただし、得票数が有権者の 10 分の 1 に満たない者は理事に就任することができない。次点者も同様とする。
- 8 当選者が理事および会計監査就任を辞退した場合は次点者を繰り上げる。
- 9 理事および会計監査に欠員が生じた場合の補充は次点者をあてる。
- 10 開票は常任理事立ち会いのもと行う。
- 11 開票の結果は会員に報告する。
- 12 理事および会計監査に欠員を生じ、第 9 項による補充ができない場合は、理事会の推薦によって補充する。
- 13 第 9 項または第 12 項による補充理事および会計監査の任期は前理事および会計監査の残存期間とする。
- 14 そのほか選挙にあたって必要事項は支部長が決定し、事後に理事会に報告する。

2. 日本気象学会東北支部発表賞

- 1 日本気象学会東北支部発表賞（以下「支部発表賞」という。）受賞者を選定するため、支部発表賞候補者推薦委員会を設ける。
- 2 委員会は支部常任理事および支部長が指名した支部会員をもって組織する。
- 3 委員会は、支部研究発表会において優れた講演を行った支部会員から、原則として2名程度を選び、受賞者を支部理事会に推薦する。原則、半数以上を学生会員とする。ただし、委員は受賞対象とはならない。
- 4 支部発表賞は賞状・副賞（賞金）とし、これを受賞者に贈呈する。

以上